



報道関係者 各位

令和元年 11 月 29 日 (金)

【照会先】

大分労働局職業安定部

部 長 越橋 健太郎

労働市場情報官 川野 剛

電話 097-535-2090(内線 313)

大分県の雇用情勢 (令和元年 10 月分)

○ 有効求人倍率 「1.44 倍」 (前月比 0.04P 低下)

- ・ 3 カ月連続で低下したが、1.4 倍台の高い水準を維持
- ・ 正社員有効求人倍率 前年同月比 0.05P 低下し 1.22 倍 (九州ブロックで 22 か月連続 1 位)

- ・ 県内の雇用情勢は、着実に改善が進んでいる。
- ・ 有効求人倍率 (季節調整値) は、前月 (1.48 倍) を 0.04 ポイント下回り、3 カ月連続で低下したが、1.4 倍台の高い水準を維持。
- ・ 有効求人倍率 (季節調整値) は、平成 27 年 2 月から 57 か月連続で 1.0 倍以上。
- ・ 有効求人数 (季節調整値) は、前月比 4.0% 減と 2 か月連続の減少。
- ・ 有効求職者数 (季節調整値) は、前月比 1.4% 減と 6 か月ぶりの減少。
- ・ 正社員有効求人倍率 (原数値) は、前年同月比 0.05 ポイント下回り 4 か月連続の低下。
- ・ 就業地別有効求人倍率 (季節調整値) は、前月比 0.02 ポイント下回り 6 か月連続の低下。(※平成 30 年 12 月以前の季節調整値は、新季節指数により改訂されています。)

1. 求人倍率の状況

- (1) 10 月の有効求人倍率 (季節調整値) は、有効求人数 (同) が 25,603 人と前月に比べ 4.0% 減少し、有効求職者数 (同) は 17,722 人と前月に比べ 1.4% 減少となったことから、前月を 0.04 ポイント下回る **1.44 倍** となりました。(昭和 38 年 1 月から集計)
- (2) 正社員有効求人倍率 (原数値) は、前年同月を 0.05 ポイント下回る **1.22 倍** となったが、平成 29 年 6 月から 29 か月連続の 1 倍台を維持しました。(平成 17 年 4 月から集計)
- (3) 就業地別有効求人倍率 (季節調整値) は、前月比 0.02 ポイント下回る **1.60 倍** となり、6 か月連続で低下しました。(平成 17 年 2 月から集計)

2. 求人の状況

新規求人数 (原数値) は 9,519 人と前年同月比で **8.7% 減少** しました。

これを主要産業別で見ますと、宿泊業、飲食サービス業 (6.9%) で増加となり、情報通信業 (▲36.3%)、生活関連サービス業、娯楽業 (▲23.0%)、建設業 (▲14.5%)、運輸業、郵便業 (▲12.1%)、サービス業 (▲12.0%)、卸売業、小売業 (▲9.0%)、製造業 (▲7.9%)、医療、福祉 (▲5.4%) で減少となりました。

3. 求職の状況

新規求職申込件数 (原数値) は 4,329 人と前年同月比で **7.7% 減少** しました。

このうち常用フルタイム新規求職者数 (同) は 2,683 人と前年同月比で 9.2% 減少しました。

内訳は、在職者 938 人 (▲8.7%)、離職者 1,607 人 (▲8.1%)、無業者 138 人 (▲22.9%) となっています。

離職者を離職理由別にみますと、事業主都合 326 人 (▲2.1%)、自己都合 1,209 人 (▲8.7%) となりました。

4. ハローワーク別有効求人倍率の状況

ハローワーク別の有効求人倍率 (原数値) を見ますと、最高は大分所の 1.68 倍 (前月 : 1.73 倍)、最低は宇佐所 1.15 倍 (前月 : 1.16 倍) となりました。

5. 雇用保険受給者の状況

雇用保険受給者実人員については、4,650 人と前年同月比で **1.6% 増加** しました。